

YUKATA FESTA YUKATA FESTA 2000

START
2分前!



空からまつりを
ながめれば



やっぱりゆ・か・たでしょ?

総科の名のもとに...
1年生が結集した!



イエーイ!!



看板娘?!



かき氷売ってまーす



熱い男の焼きおにぎりだ!



みなさんおつかれさまでした

就職危機の時代を のりきるために

総合科学部長 江口 正 晃



この数年、超氷河期といわれる就職難の時代が続き、そのうえ雇用形態もずいぶんドライに変化して能力主義が重んじられるようになってきつつある。

去る3月、私も(は)3つの会社の企業訪問をしてきた。もちろん自分の定年後に採用してもらおうというわけではなく、広島大学の卒業生の採用をもっと増やして欲しい、広島大学からぜひ採用して欲しいということをお願いしに行ったのである。これらの会社を回って深く感じたことは、企業サイドが人材育成に関して大学に求めていることと、学生諸君の意識との間にはかなりの「ずれ」があるのではないかということである。この「ずれ」は大学が考えている卒業生像と、学生諸君がもっている目的意識との間の「ずれ」にもなっていないだろうか、多少心配しているところでもある。私の思い過ごしであるならばそれにこしたことはない。

ちなみに、その際に説明してもらった「企業が求めている人材像」は：

- ①基礎学力をきちんと理解していて、問題発見能力、解決能力を持っていること、
- ②考える力やチャレンジ精神を持っていること、
- ③自分で考え行動でき、人間的にしっかりしていること、
- ④マニュアル無しでやっていけるだけの、総合的判断力をもっていること、
- ⑤多様な価値観を理解し受け入れられるような、人間としての幅・柔軟性をもっていること

などであった。

総合科学部の教育理念に通じるものが多いが、とても授業だけでこれらのことが身に付くわけではない。学生の皆さんはこのことをどのように考えるだろうか。日々の生活やボランティア活動などの授業以外の課外活動等を通じて得られるものも多いし、子供の頃からの家庭生活で身につけるべきことも多いと思われる。

社会の急激な変化によって、大学で学んだことが数年のうちに時代遅れになる可能性は高い。学生時代には、そのような変化に対して柔軟に対応でき、その中で生きていける能力を育てておいて欲しいと思う。そのためには、①で言われていることが、大学で最先端を学んでいるかどうかより、もっと基本的なことである。基礎的知識を、単に知識として持っているだけでは役に立たない。それがどのようなことを意味しているのかをしっかりとつかんで、本当に「理解しておく」ことが重要であると、ある企業の人事担当者は言っていた。

②～⑤は、社会の一員として生きていくために必要な能力、すなわち、忍耐力、意思伝達力、折衝力、協調性、決断力、適応力、行動力、リーダーシップなどの「人間基礎力」とでも言うべき能力であろう。これらは、これからの大学での学修や課外活動などにおいて、自覚し行動することによって身につけることが可能である。日々の生活に流されていると、あっという間

に卒業の時期を迎えてしまうことになるが、自らを磨くために皆さんはどういうことに努力を払っているだろうか。

原田学長は、これからの社会で生きていくには、情報リテラシー能力と英語によるコミュニケーション能力が不可欠であるとして、西図書館およびその周辺には640台のコンピュータを設置されて、学生諸君がいつでも使えるような環境を整えて下さった。積極的な活用を期待すると同時に、私はここで学生諸君に一つだけ問を発したい。情報リテラシー能力と英語によるコミュニケーション能力が仮に身に付いたとして、はたして、それらを通じて自分が伝えようとする中身は何であろうか。

これからますます世界との距離が縮まって、学会や商用などで外国に行くことやあるいはパーティーに出席する機会もあるだろう。そのときその人の教養や中身がないと、単なるお喋りになってすぐに飽きられてしまう。持っている人間的な魅力で相手の信頼を勝ち取り、商談も成立させることができるのではないだろうか。就職の面接のときも然りであろう。

***** 目次 *****

特集1 「就職活動の解剖学」…………… p 3
 エッセイ1 (テーマエッセイ)
 「ボーダレス時代のコミュニケーション」…………… p 10
 総科プロジェクト研究…………… p 11
 センター紹介 情報教育研究センター…………… p 15
 外国語教育研究センター…………… p 17
 学生就職センター…………… p 19
 学生相談室…………… p 20
 エッセイ2 (旅行記)
 「ねばーる旅行記」…………… p 21
 特集2 「大学を創る」…………… p 23
 研究室紹介
 広域文化研究講座 窪田研究室…………… p 27
 社会環境研究講座 岡本研究室…………… p 28
 制作科学講座 大池研究室…………… p 29
 行動科学講座 林研究室…………… p 30
 物質科学講座 永井研究室…………… p 31
 自然環境科学講座 於保研究室…………… p 32
 言語文化研究講座 小川研究室…………… p 33
 数理情報科学講座 宮尾研究室…………… p 35
 本のお話…………… p 37
 読者からの声…………… p 38
 卒論テーマ紹介…………… p 39
 人事異動・新任教官紹介…………… p 43
 編集後記…………… p 46

お知らせ
 ▼コース制からプログラム制の移行に伴い、教官の所属がコース(8コース)から講座(9講座)へと変わりました。
 ▼本文中では、平成〇年度入学の学生をH〇生と表記しています。

就職活動の解剖学

～就職活動って何するの?～

1、2年生諸君!!

君達は「就職活動なんてまだまだ先。」なんて思っていないかい?

3年生諸君!!

就職活動って「何をやるんだろう。」という不安を抱いてないかい?

そんなあなた方にこの特集を贈ります。

就職活動の進め方や、先輩方のアドバイスを

どうぞ御覧下さい。

☆☆☆☆☆☆就職センター長からのアドバイス☆☆☆☆☆☆

「納得できる就職をするために」

学生就職センター長 松水征夫

長引く不況のため超氷河期と呼ばれる厳しい就職戦線の中で、就職活動が本意な結果に終わる人が多くなっています。後で後悔しないように、自分の納得できる就職をするためにはどうすればよいのでしょうか。

バブル崩壊後、企業は経営合理化のためにリストラを進める一方で、いかにして優秀な人材を採用するかに全力を挙げて取り組んでいます。このため、企業の採用活動は早期化・長期化するとともに、採用方法も多様化・厳選化しています。

したがって学生諸君は、納得できる企業に就職するためには、まず就職活動に不可欠なインターネットの利用に習熟するとともに、エントリーシート(志望理由書)の書き方や面接の受け方等、就職活動に必要な知識をあらかじめ身につけておくことが大切です。

また最近の学生諸君は、自分の将来の進路について明確な目的意識を持っていない人が多くなっています。しかし企業の面接試験では、入社動機や、入社後にやりたい仕事についてだけでなく、学生諸君が大学のゼミナールやサークルなどで具体的に何を学んだかが必ず問われます。したがって早期に自分の進路を決めて、大学時代に目的意識を持って学ぶことが大切になっています。

さらに就職活動を始めるようになってあわてないようにするためには、インターンシップに参加して自分の適性を見つけたり、2年次生以上を対象として開講されている本学の就職講義を聴講して職業意識を高め、就職活動の準備を、早期に始めたりすることも必要です。

1・2年次生は、就職はまだ先の問題だと考えている人が多いと思いますが、自分の納得できる就職をするためには、早期に進路を決めて目的意識を持って学ぶことが大切であることを忘れないようにがんばって下さい。

☆☆

就職活動の流れ

*必ずこの流れというわけではありませんが、一般的な就職活動の流れを紹介します。

<バーチャル企業訪問>

企業によっては工夫を凝らしたwebサイトがあり、中にはネット上で擬似的な会社訪問を行ったり、OB・OG訪問をして情報交換を行ったりすることができる。また、個人による就職活動に関するサイトもあるのでそれも参考にできる。

1. はじめに

自分のやりたい仕事、
勤めたい業界や企業を定める

会社研究の注意点

- ・同じ業界内で比較する
(会社の良い所、悪いところ)
- ・市場調査(会社のシェア、収益)
- ・企業目標(社会への還元など)

2. 準備

自己分析・業界・企業研究を行う

<業界研究の三大要素>

「読むこと」：資料を読む、業界をよく知れば、志望動機も固まってくる。

「聞くこと」：OB・OG、大学の先生・親・親類からの話しを聞く。このとき、自分が「何を知りたいのか(聞きたいか)」を明確にしておく。

「見ること」：業界特集のテレビ番組、ビデオ、映画、雑誌などから情報収集

3. 会社説明会

- ・ビデオの視聴会
- ・模擬体験
- ・job fair

企業が大人数を集め、ハネルディスカッション方式で会社の説明会を行う。就職活動者同士の情報交換も行える。



4. エントリー

- ・リクルートナビから
- ・会社のHPから
- ・ハガキで資料請求を行う

リクルートナビのHP (1例:リクルート社)
www.isize.com/RN/

5. 一次選考

エントリーシートや自己PR文による書類選考

6. 説明会

履歴書を出させる簡単な面接をするところもある

・送付された入社案内に対するアンケートが付いている会社もある。このアンケートを返送しないと企業セミナーや会社説明会の告知が来ない場合もあるので注意。

・資料請求ハガキをどの会社にいつ資料請求したのかについては就職ノートに記入する。就職ノートは自分で用意すること。

<エントリーシート>

エントリーするために必要。質問項目は、経歴や自己PRや志望動機など。その企業での就職意思を表明するための極めて重要なものである。

- ・自己PR…自分の考えや自分の人間性を見せ自分の言葉を使い本音で表現すること。
- ・志望動機…この会社でやりたいこと、なぜこの仕事がやりたいのか、そして自分の何を活かせるか。

<SPI(適性検査)>

- ・能力検査…問題解決能力、論理的思考力、数理解的能力、判断力、理解力を判断する
- ・性格検査…対人特性・行動特性・意欲・性格類型・情緒的側面をYes・Noテストで判断する
- ・職業適性…忍耐力・集中力が試される (ex.クレベリン検査)

<一般常識>

- ・漢字の読み書き高校1・2レベルの自然科学や人文科学・時事など

<論作文>

主に論理的思考力、文章表現力、業界・企業理解力を確かめるのが目的。

- ・自己分析力や価値観・意欲も判明する。
- ・自由テーマの場合もある(想像性、発想力、問題定義能力を見る)。

7. 筆記試験

- ・一般常識
- ・論作文
- ・適性検査

8. 二次選考

筆記試験などをもとに面接可能な人数に絞り込む

<面接>

・企業によって試験回数や面接回数、試験と面接の順序は様々である。ただし筆記試験は一回、面接は数回あるのが普通。

9. 面接

人事面接やグループディスカッション

10. 三次選考

役員面接を行える人数に絞る

11. 面接

役員面接を行う

12. 最終選考

最終面接など健康診断

最終段階

合否連絡
↓
意思確認

内定

<役員面接と最終面接>

- ・同じものとして行う企業もある。

★エントリーシート項目の自己PRや就職動機を書くために、早い段階から自己分析しておく必要がある。

<<自己分析>>

①企業質問の想定

- ・「あなたはどのような人か？」
- ・「あなたは何ができるのか？」
- ・「あなたはこれから何がしたいのか？」

②自分自身の整理

- ・近い過去の自分を知る ・身近な人の評価で自分自身を知る
- ・現時点での自分を知る

③自分自身の目標

- ・これからの将来のヴィジョン

就職活動真っ最中の先輩達は今…

～就職アンケート結果より～

Q. いつから就職活動始めたの？

- 一位 12月
- 二位 10～11月
- 三位 4月

Q. 何社受けた？

- 一位 約20社
- 二位 約10社
- 三位 1～5社

Q. いくらお金がかかるの？

- 一位 20～25万 (円)
- 二位 1～5万
- 三位 10～15万
26～30万



Q. 面接での戸惑った質問とは？

- ・雑談(例、しまなみ海道について)
- ・他社の内定状況、受験状況
- ・全国どこでも勤務できるかさりげなく聞かれた

あなたは善人ですか？
悪人ですか？

広島大学って国立大学なの？

あなたを四字熟語で表すと？

みかんについて話してくれるかい？

Q. 就職活動で良かったこと、苦勞していること、腹の立つこと、困っていること、面白かったことは？

金かかりすぎ



- * スーツは暑い。(夏は死にそう)
- * 一週間に10社ほど訪問した。
- * 卒論の研究と並行して、試験の勉強もしなければならない。
- * 就職センターで少し相談をしたら、たくさんのことを教えてもらって励ましてもらって、すごくうれしかった。
- * いろんな所に行けると思いこむと面白いかも。友達の輪が広がる。
- * ゴルフ好きの面接官がゴルフの話題を出した学生にだけ時間をとった。

1日以上かけて行って二時間くらい待たされてたった二分の面接ってなめとんのかー！！

人が一生懸命話しているのに足を高々と組んで鼻をかむなあー！

Q. 総合科学部に対する企業の反応は？

- ・総科については、質問しない企業や、興味を持つ企業など様々である。
- ・聞かれた場合、自分なりの考えを持ってないと不利になるし、きちんと自分なりの考え、自分の視点があれば逆に有利になった。(複数回答)
- ・せっかくユニークな学部には所属しているのだから、そこで自分をアピールしない手はない。

後輩にアドバイス



- ・会社の数がとても多いため、どこを受ければいいのかわからなくなるのでちゃんと目標を定めておいた方がよい。
- ・早めに目標を決め、早めに情報を集めるようにした方がよい。
- ・自分の専門にしたいことは、早いうちから勉強しておいた方がよい。
- ・4年になると忙しくなるので、勉強する暇がなくなります。

- ・友達大切にしておくべき。(遠くの就職試験地にいる友人に泊めてもらったり、落ち込んだときに相談したり。) 友達のありがたさを改めて知った。
- ・勉強の材料はいろいろなところに転がっているので、広い視野を持ってそれらを捉え、頑張ってください。



- ・自己PR、学生時代したこと、志望理由は何処へ行っても聞かれます。面接はエラそうにならず、笑顔でしましょう。
- ・どんなマイナーなものでも、自分の誇れるものを大学時代にきちんとつくっておくべきです。個性と自信は就職活動の武器になる。

進学の人へ

もし大学院進学を考えているなら、なるべく早い内に研究室訪問してください。大学院によっては説明会を行っている所もありますので、インターネットのHPなども参考にして下さい。大学院の詳細が載っている本はあまり参考にならないので、ぜひ訪問して、教授と直接お話をすることをおすすめします。

今回の調査では4年生からいただいた42通のアンケート回答を参考にさせていただきました。少ないデータのため、一部偏りがあるかもしれませんが、今回はこのアンケート結果の報告とさせていただきます。ご了承ください。

なお、ご多忙の中アンケートに協力してくださった4年生の方々、本当にどうもありがとうございました。

企業からの視点で

これまで、就職センター長や先輩方の意見に注目して就職に関して考えてきたわけだが、これは言わば非企業側からの視点である。しかし実際に就職活動をして、採否を決めるのは企業である。つまりこの厳しい就職現状において内定を勝ち取るには、企業がどのような人材を求めているのか、という意見を知っておくことが重要なのだ。下記のものはある企業に依頼して書いていただいたものである。是非、これを参考にいただき、これまでの記事を含めて就職活動に対する意識を高めてもらいたい。そして、あなたはあなたの夢を勝ち取るのだ!!

例えば最終選考で同レベルの学生さんをどちらか選ばなければならないとします。この時私であれば、その学生さんの「成長意欲」で選びます。その「成長意欲」をどういう方法で見極めるのかというと、その人の「仕事に対する目標」、つまり「どんな仕事をしたいと考えているか」ということから判断するのです。私の経験上「成長意欲と目標」には密接な関係があります。ですから、「どのような目標を持っているのか」、「その具体的な内容はどうか」、また「その目標を達成するために今現在何をしているか?」これら3つの質問でその人の成長意欲は判断できます。考えてみて下さい、これは学生さんだけでなく皆さんが就職する「会社」にも言えることなのです。「いい会社」とは素晴らしい目標を持ち、その目標達成に向けて大変な努力をしています。そういう「いい会社」に就職しようと思うなら、自分自身が目標を持つことは最低限必要です、そもそも「いい就職」の定義とは、「自分の目標」と「就職先(会社)の目標」の方向性が一致していることなのです。就職セミナー等で上記のような話をすると、「どうやって目標を持てばいいのでしょうか?」という質問をされる方があ

ります。「自分もそれについて聞いてみたい」こう思っているあなた、甘えている場合はありません。それは単に本気で考えていないことの証明であり、「いい就職はちょっと無理…予備軍」であると考えて間違いありません。ここで少し視点を変えて、「仕事と時間」という側面から考えてみましょう。仕事は、最低でも一日8時間、週で40時間、月に160時間、年で1920時間付き合うものです。大富豪で仕事をしなくても生きていけるか、もしくは結婚退社でもしない限り、22才で就職して60才の定年までの約38年間、72960時間という気の遠くなりそうな程長時間付き合うのです。これは皆さんの彼や彼女、私の愛する(?)妻よりも長い時間を過ごすパートナーであるということです。そんなに長く付き合う仕事が「最高のパートナー」でなかったとしたらどうでしょうか?考えただけで嫌になってしまいませんか?だからこそ今すぐ自分の目標について考えてみて下さい。本気で考えれば、おぼろげながらも見えてくるものです。皆さんが素晴らしい目標を持ち、皆さんなりの「いい会社」に就職されることを心より祈念しています。

ボーダーレス時代のコミュニケーション

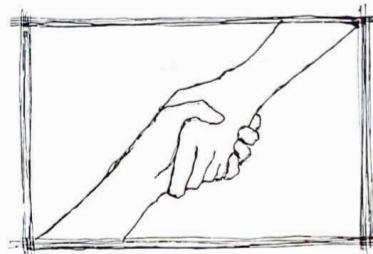
言語文化研究講座 谷本秀康

「コミュニケーション」というテーマで「飛翔」に載せる記事を書いてほしいと依頼があった。このカタカナ英語が日本語として市民権を得て久しいが、21世紀の到来を数ヵ月後に控えた今、communicationの意味とその重要性を再確認することは多いに意味があるように思われる。



communicationは通常「意思疎通、(情報)伝達、通信」などと日本語に訳されている。その語源はラテン語の「共通のものにする、共に義務を果たすこと」を意味する単語に由来しておりcommunity「共同体」、communism「共産主義」、companion「仲間」などと同じ語源を共有する言葉である。

多くの異なる民族や言語が混在する欧米社会においてお互いの相違を克服し共に理解しあうには、言葉によるコミュニケーションは自らの生存のための不可欠な手段であった。一方、アイヌや少数の在日外国人の人達を除けば単一民族、単一言語の国であった均質的な日本社会においては言葉によるコミュニケ



ーションが軽視され「以心伝心」や「腹芸」などの非言語的コミュニケーション手段を発達させて「察しの文化」を育んで来た。

白黒(Yes or No)をはっきりさせることを避け、グレーゾーン(灰色のあいまいな領域)でコミュニケーションをすることに慣れ親しんできた多くの日本人にとって自分の意見や考えを明確に理路整然と述べるのはあまり得意ではない。しかしながら、日常生活のあらゆる側面で国際化と情報化が急速に進み、言語、文化、伝統、習慣、宗教などを異にする人々と接すること(異文化コミュニケーション)やE-mailが世界中を飛び交うことが日常茶飯事となった現代社会において日本的コミュニケーションに固執し続けるならば日本人は世界的に孤立し、誤解を招く恐れがある。



他国の人々と地球市民としての「共通の認識と理解を持ち、共に義務を果たす」ためには一方的に海外から情報を得るだけでなく、海外に向けて情報を発信し、双方向のコミュニケーションを促進していく必要がある。その手段として英語をはじめとする諸外国語の運用能力を高めることが21世紀のボーダーレス(国境線なき)時代に生きる日本人にとって緊急の課題といえるだろう。

総合科学プロジェクト研究

高齢化と社会システム転換に関する総合的研究

— 広島市を事例に —

広島大学 石倉 康次

はじめに

このプロジェクト研究は、高齢化問題を医療や福祉問題に特化せず、社会システム全体の構造転換にかかわる総合的な問題ととらえ、その実相を広島市において実証的にあきらかにすることを目的としている。総合的な視点を要する研究であるため、社会環境研究講座の社会学系と法学系の教官による共同研究として実施した。研究成果の発表には大学院生も加わり、実態調査には学部学生も参加した。

調査は1998年と99年にわたり2回実施した。98年度は広島市に在住する60歳以上の高齢者を対象に総合的な調査を行い、99年は、高齢者予備軍といえる中年に焦点をあてて調査を行った。

ここでは、99年実施の中年調査によって明らかになったことを、一部紹介してみよう。

1. 中年層と「支店都市」としての広島市の特質

広島市は、人口100万人規模の都市として、札幌、仙台、福岡とならんで「札・仙・広・福」と称されることがある。なかでも、広島市は、中国・四国地方の行政面での中核都市であり、経済面では「支店都市」としての性格を有している。また、同時に広島県下からも人口を多く集めて都市人口をふくらませてきた。このような、性格は、中年層の構成にもよく現れている。

(1) 広島市以外から転入状況

広島市の中年層は、半数以上が市域外から転入してきた人で占められている。市内居住時期をみると、1964年以前(45.2%)、1966年～84年(38.8%)、1985年以降(15.9%)となっており、学卒以降、広島市内に居住するようになっている人が半数以上であり、最近15年以内に広島市内に居住した人も15.9%ある。義務教育修了地では広島市(40.0%)、広島県下(31.1%)、広島県外(28.9%)である。

(2) 出身地別の職業構成の特質

中年層のうち、男性の職業をみると、事務・技術・専門職常勤の比率が最も高いのであるが、出身地域により職業構成に特徴がみられる。現在の職業を義務教育修了地別にみると、広島市で義務教育を修了した人は、自営業(18.1%)、広島県下で修了した人は労務製造業(15.3%)、島根県で修了した人は販売サービス(37.5%)の比率が相対的に高い。広島県外では九州地方が労務製造業の比率が相対的に高いのをぞいて事務技術専門職(10.0%)の比率が相対的に高く、ホワイトカラーの転入が多いことを示している。

義務教育修了地域別にみた男性の現在の職業構成比 (上位3:%)

	全 体	広島市	広島県	山口県	島根県	岡山県	鳥取県	四 国	九 州	その他
1	事務 37.9	事務 37.8	事務 31.1	事務 46.9	事務 40.6	—	事務 77.8	事務 58.8	事務 36.4	事務 50.0
2	自営 15.0	自営 18.1	自営 16.3	販売 21.9	販売 37.5	—	—	自営 23.5	労務 13.6	販売 20.4
3	販売 14.0	販売 11.5	労務 15.3	—	—	—	—	—	—	—

事務：事務・技術・専門職常勤 自営：自営業家族従業員 販売：販売・サービス担当常勤
 労務：労務・製造作業常勤。空欄はサンプルが少ないため省略。

女性の場合も出身地域により差異がみとめられる。おそらく転勤族の妻がほとんどと思われる「その他」の地域で義務教育を修了した女性、および広島市で義務教育を修了した女性は専業主婦の比率が相対的に高く、広島県下で修了した人は事務・技術・専門職常勤の比率が、九州で修了した人は日雇い・パート職の比率が相対的に高いことが注目される。

義務教育修了地域別にみた女性の現在の職業構成比 (単位:%)

	全 体	広島市	広島県	山口県	島根県	岡山県	鳥取県	四 国	九 州	その他
主 婦	41.5	45.4	38.5	36.5	37.9	61.5	40.0	43.5	46.2	50.0
パート	24.6	20.0	25.0	27.0	37.9	—	—	30.4	42.9	24.6
事 務	15.3	15.6	18.3	—	—	—	—	—	—	—

主婦：無職または主婦 パート：日雇い・非常勤・パート事務：事務・技術・専門職常勤

情報教育研究センター

広島大学情報教育研究センターは現在、西図書館2階の西側と3階の大部分で活動している、文字通り情報教育・研究のための施設である。学部生の人なら大抵の人が、このセンターでパソコンを使って電子メールのやり取りをしたり、文書を作成したり、インターネットでいろいろなHPを見たりしているのではないだろうか。



2階情報教育研究センター写真



3階写真

*活動・仕事内容

主な内容は**教養的教育の情報教育の企画と支援**であり、全学の教官が授業をスムーズに行えるよう機器の管理と整備を行っている。

具体的には、2階・3階にそれぞれ設けられた受付(カウンター)で、パソコンについてよくわからない人や困っている人の質問に答えている(受付に常時2、3人はいます。気軽に質問にきて下さい)。PM5時以降は、夜番と呼ばれる大学院生が受け答えを担当している。

他に、デジタルカメラの貸し出しなども行っている。

*歴史・変遷

- 1996年10月 情報教育センター設立
- 1997年4月 西図書館2階に**情報教育研究センター演習室**開設
- 1998年11月 西図書館2階に**オープンスペースラボ**開設
- 1999年5月 西図書館3階に**情報教育端末コーナー**開設
- 2000年6月 西図書館3階が新たに**マルチメディアフロア**としてオープン

[西図書館2階スペース]

情報教育研究センター演習室

ICE LINUX 94台

講義優先、それ以外の時間は学生が自由に使える。



[西図書館3階スペース]

情報教育端末用オープンスペース

ICE LINUX 130台

圧倒的な端末台数で、2階が混雑している時でも余裕がある。

オープンスペースラボ

ノート型ICE LINUX 20台

NEXT STEP端末 30台

(NEXT STEPは2年次生以上の学生のため)



マルチメディア自習室

Macintosh 21台

フォトショップなどのソフトウェアが用意され、ペインティング環境が整っている。またキーボードやMIDI、コンポなどがあり、さらにビデオやCD-Rも用意されているので、大学に居ながら音楽・映像編集をすることができる(学生の創造性に期待します)。

情報化グループ学習室

モニターにパソコンなどの映像を映しつつ、全員でノートパソコンを使いながら議論できる場所。教養ゼミなどで使用することができる。



*利用時間・休館日

2階	平日	AM 9:00からPM 9:00まで
	土曜日	AM 9:00からPM 5:00まで
	休館日	日曜、祝日、他にセンター長が定めた日
3階	平日	AM 9:00からPM 8:45まで
	土曜日	AM 10:00からPM 4:45まで
	休館日	日曜、祝日など

(3階は、基本的には西図書館が利用できない日は利用できません)

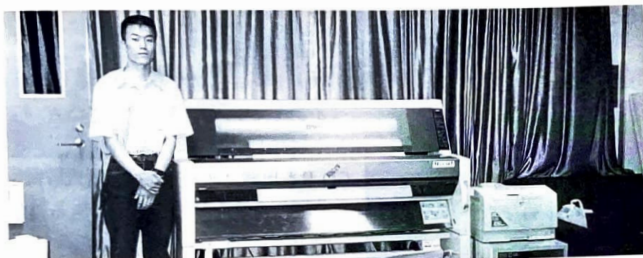
*外部の方の利用状況

セキュリティ上の問題もあり、基本的には外部の方は利用できないことになっている（利用登録された方を除く）。ただ例外的として「大学祭」の時に、ウォークラリーの一環として情報教育センターを一般の方々に公開して、多くの方にパソコンに親しんでいただいたことはあります。

*情報教育研究センターから、飛翔を通して何か一言・メッセージなど

学生の方———パソコンについて、苦手だと思わずにどんどん利用してほしい。そしてわからなければ、初歩的な質問でもどんどんしてほしい。

教官、事務の方———教育や研究などの面で支援します。例えば下の写真にある大きなプリンターで、会議などで使う大型ポスターを印刷できます。ご利用下さい。詳しくは受付までお尋ね下さい。



外国語教育研究センター

外国語教育研究センターは、世間の国際化に伴い外国語教育の充実と刷新を図るために設立された。活動としては以下のものがある。

1) 教養的教育外国語授業の統括

- ・カリキュラム編成
- ・時間割作成の企画、実施、管理
- ・英語習熟度別クラス編成のための統一試験の実施（前期・後期各一回）
- ・特別試験の実施

2) 先端的学術研究の推進

- ・外国語教育研究プロジェクトへの助成
- ・CALL研究会の開催
- ・講演会・シンポジウムの開催
- ・外国語教授法研究会の開催
- ・センター紀要「広島外国語教育研究」の発行（年一回刊行）

3) 教育サービスの提供

- ・英語研修プログラム（全学対象）
- ・マルチメディア外国語自習室
- ・同第二自習室
- ・TOEFL、ITPの実施
- ・イングリッシュキャンプの実施

4) 広報活動

- ・ニュースレターの発行
- ・インターネット・ホームページの整備
(URL:<http://www.ipc.hiroshima-u.ac.jp/~langlabo>)

1についてはどの大学でも行われているが、2・3のサービスは広島大学独自のもので、2のサービスは主に教員を、3のサービスは主に学生を対象に行われている。また、始めに紹介したが外国語教育センターは設備が充実している。特にこの春から新しくなったマルチメディア自習室では、最新の機器を使って外国語を学ぶことができる。

インタビュー：外国語教育研究センター長 田中正道教授

>>センターの利用について

センターは、外国語を勉強したいと思っている人が学ぶことができるだけのものを用意している。しかし学生は授業が忙しく、センターを利用する機会が少ない。授業を工夫してできるだけ利用するようにしてもらいたい。

>>外国語を学ぼうとしている学生へ

外国語は基礎が大切。英語などは中学高校の勉強ができていれば外国語での長期滞在もできる。センターは留学を進めているわけではなく、広島にいても外国語の基礎ができるようにすることが目的。センターを利用して外国語の基礎を身につけてもらいたい。

>>まだ外国語を学ぼうと思っていない学生へ

外国語の面白さは人とのコミュニケーションにある。私自身もあまり英語に興味のある方ではなかったが、高校生のとき外国人に道を尋ねられて英語を話し、それが通じたとき外国語を話す面白さを感じた。外国語は誰でも学ぶことができるものなので、まだ外国語を学ぼうと思っていない人達には外国語でコミュニケーションがとれたときの喜びを知ってもらいたい。

学生就職センター

設立の背景と目的

広島大学は医学部、園学部を除く全ての学部を東広島市に移転しましたが、学生が、首都圏、関西圏の企業訪問をする際、多大な労力を必要とすることや、就職についての情報が手に入りにくいことなど、首都圏等の大学と比較して地理的に不利な状況にあることが心配されていました。また、採用方法の多様化などにより、学生の就職活動も様変わりしてきました。このため、学生の就職活動を支援することを目的として、全国の国立大学で最も早く「学生就職センター」を、設立しました。平成10年5月1日のことです。

主要な活動

- 1 就職講義 職業意識啓発のために、センター専任教授が、2年次以降の学生を対象にした教養的教育科目として、前後期各2単位の講義を開設しています。これは全国公私立大学で最も早い取り組みです。
- 2 就職相談 センター関係者の他、企業の人事担当経験のあるOBを相談者として招き、月、火、金、それぞれ各4時間対応しています。普段は8:30~17:00ですが、就職活動の盛んなときは、19:00頃まで開けています。
- 3 就職ガイダンス 学生の就職活動を支援する次のような各種ガイダンスを開催しています。

- ① 就職活動基本ガイダンス
- ② 公務員ガイダンス
- ③ 女子学生のための就職ガイダンス
- ④ 業界、企業セミナー

4 就職情報の提供

- ① ホームページによる情報提供
(home.hiroshima-u.ac.jp/job/)

特に求人情報はセンターで受け付けた求人情報を入力しています。会社名、産業別、職業別、勤務地、説明会開催日、場所により検索する事ができます。

② センター・ニュースの発行

★また、外部の人の利用状況としては、広島大学に限ってくる求人情報以外の求人情報をOB・OGや、他大学の学生にも提供をしています。

★休館日 土、日、祝日

センターの位置 大学会館2階

センターからの一言 ここに来る人は、だいたい就職していきますよ。なぜなら問題意識がはっきりしているからです。問題なのは意識のない人で、そういう人の意識付けをするために、今年から、学生に近い存在である先生方に協力を得るべく、教職員から意識改革を始めました。学生の方に申しあげたいのは、1年次から目的意識、問題意識を持って大学生活を送ってほしいということです。大学時代に何をやったかは企業で必ずきかれることで、すべてそのためというわけではないですが、サークル活動や、ボランティア活動など何かやり遂げたものを持って、卒業して欲しいです。また、就職活動がなければ、社会にでて活躍するために必要な礼儀やマナーなどは身に付かないといっても過言ではありません。大学で成人をむかえるわけですから、就職活動を通して、そういうものを身につけていって欲しいですね。



学生相談室

○学生相談室の歴史

昭和37年、まだ総合科学部が教養部だった頃に、必要性を実感した教授陣の間から自発的に形成された。当初は6人~12人の教科担任の先生方が交代で相談に当たっていたが、後に常勤の相談員が置かれるようになった。昭和45年、保健管理センターが設置され、以後連携して学生相談にあたっている。最近では、図書館三階に設置されたピア・サポートとも連携を密にしている。

○利用方法：場所=総合科学部事務棟三階

広島大学の学生の相談なら、なんでも受け付ける。
<グループ・カウンセリング>

目的=学生の自己理解・自己確立。対人関係の発展。
「あたたかい仲間」の会を目指している。

●「土曜友の会」

月一回土曜日2:30~5:30。広大生ほか、卒業生、社会人にも開放。時間の途中からでも都合のよい時間に参加でき、会費200円でコーヒーやお菓子がでる。

●「オープン・フライディ」

授業期間中の金曜日4:30~6:00。

開室時間・担当者

月曜日	a.m.9:00~p.m.5:00 大中、岩村、大島
火曜日	a.m.9:00~p.m.5:00 竹味、岩村
水曜日	a.m.9:00~p.m.5:00 岩村
木曜日	a.m.9:00~p.m.5:00 竹味
金曜日	a.m.9:00~p.m.5:00 岩村



○相談内容について

実際に相談室を訪れた実数では、修学・進路関係の相談が最も多い。留学・転学部といった勉学についての相談から、宗教団体とのトラブル・交通事故など大学の外における相談も受け付けている。一対一のカウンセリングで、プライバシーは厳守され、アドバイスの押しつけなどはしない。

○岩村聡先生のお話

学生相談室のあり方として、学生の生活全体をトータルとして捉え、一人一人に最も良いと思われる道と一緒に探していこうというスタンスをとっている。また、相談室だけでなく、ゼミ・各教科担任・チューターの諸先生方と連携して、大学全体で学生相談を担っていく。国立大学の独立法人化をめぐる、全国の学生相談室は激動の時期を迎えようとしている。が、大学内における学生相談室の必要性は認識されていることと思う。